

「まえばし暮らしテック推進事業」 と今後の進め方

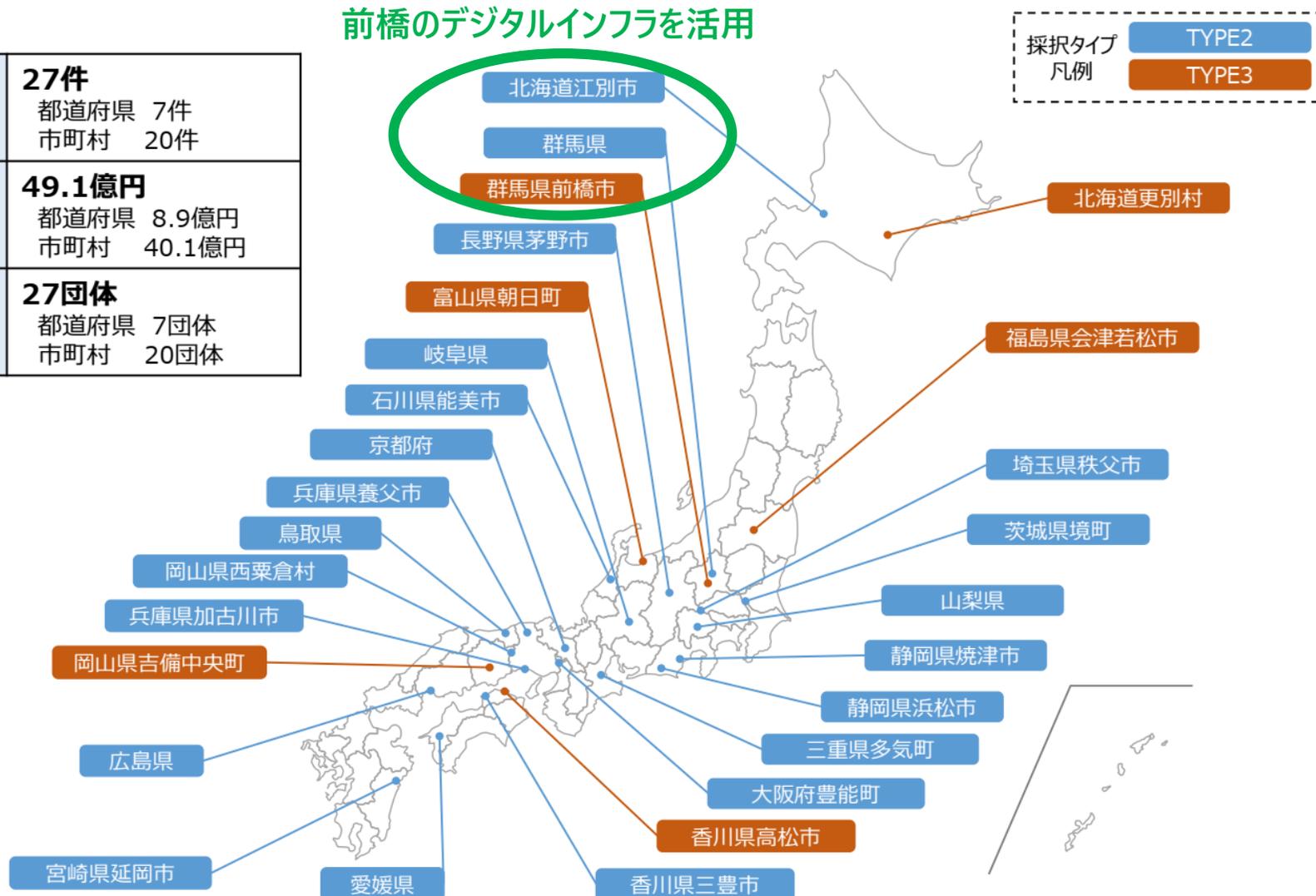
デジタル実装タイプ（TYPE2/3）の採択結果 <サマリ>

- デジタル実装タイプ（TYPE2/3）はデータ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う取組を行う地方公共団体の取組を支援
- 採択事業件数（団体数）は27件（団体）、採択金額（国費）は約49億円

<採択結果>

採択事業件数	27件 都道府県 7件 市町村 20件
採択金額 (国費)	49.1億円 都道府県 8.9億円 市町村 40.1億円
採択団体数	27団体 都道府県 7団体 市町村 20団体

前橋のデジタルインフラを活用



実施地域	群馬県前橋市	事業費	74,153万円 (国補助額49,435万円)
-------------	--------	------------	----------------------------

実施主体	群馬県前橋市
-------------	--------

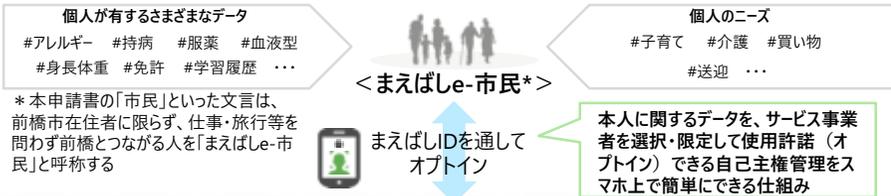
事業概要 市民によって育まれる共助型未来都市を目指し、一人ひとりがWell-beingでいられる街を実現するため、地方中核都市が抱える「あらゆる分野の課題が存在し、単一分野の領域の高度化では充分ではない」点を考慮し、前橋市では暮らしのあらゆる局面において、データ連携と最先端の技術によりデジタルで社会課題を解決【テック】する「暮らしテック推進」を行い、地方中核都市の先駆けとなるモデルを実装する。今年度では中でも、教育、子育て、健康情報活用、交通、文化・芸術・自然環境に対する行動変容促進等の領域に注力する。本人の同意に基づき、自身に関するデータ（分散して存在）をサービス提供者に使用許諾（オプトイン）することで、サービス提供者が個別最適化（パーソナライズ）したサービスをレコメンド・提供できるようにすることで、一人一人の暮らしがバージョンアップする。サービスだけでなく「ID」「データ連携基盤」を提供する「官民連携会社」も実装する。これらの整備・実装が、地域のリソースやデータをシェアし、共助の精神に基づいた市民中心のまちづくりを加速させる。

取組内容

前橋市のビジョン「めぶく。」=人がめぶく。会話がめぶく。産業がめぶく。
= Well-beingの達成

人が学び育つ 人の心が豊かに 人がつながる 人の体が軽やかに

共助社会の実現



- | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1.コミュニティ共助学育(街じゅうにいる専門家と学びたい人のマッチング) | 2.アレルギー情報の多角連携による寄り添うサービスの創出 | 3.オンラインワン母子手帳とデジタルソーシャルワーカーによる子育てサポート | 4.シミュレーション運転時の生体データを活用した危険運転度合いの測定 | 5.デジタルポイントによる文化・芸術・地域活性化 | 6.緑化・生態系の可視化による環境意識の醸成 | 7.電力データ活用イエナカ情報の見える化による地域見守り | 8.不動産IDデータとまえばしIDの連携による賑わい創出(補助対象外) | 9.くま共創モビリティ社会の推進(群馬県連携事業の県側にて補助申請) |
|--------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|--------------------------|------------------------|------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|



個人に関するデータを、使用許諾（オプトイン）したサービス事業者へ連携 ※データ非保持

ID発行・データ連携促進

官民連携会社

(めぶくグラウンド)

- デジタル共助ポイントの発行
- まえばしダッシュボード
- サイバースク評価
- 遠隔窓口・インフラシェア

背景課題

市民によって育まれる共助型未来都市、一人ひとりがWell-Beingでいられる街をめざして、リアル/デジタル両面でのまちづくりを推進中。その中で交通や介護等の生活のベースとなる部分の高度化や、文化芸術をより深めて身近にするような自己実現・自己超越に向けた取り組みも求められ、単一の課題に特化するのではなく、あらゆる生活やニーズへの対応が「地方中核都市ならではの課題」として浮かび上がっている。地域全体で「個人情報やデータを連携」することが必要となるが、安全・安心面や利便性の課題から限定的となっている。

狙い

地方中核都市の抱える課題やジレンマへの対応として、
①単一の課題に閉じず生活のあらゆる局面の課題に対応できる環境を整備・実装
②個人の意思によってデータ連携が地域でスムーズに執り行われる環境を整備・実装を行い全国の地方中核都市のモデルとなるような先駆的取り組みを実装し展開する

生活のあらゆる局面を支える「まえばし暮らしテック推進事業」の実施

1.コミュニティ共助学育 多様な学びを求めている人と、自身の経験を社会に還元したい人をつなげ様々な学びの場を創出し、地域での学びを教育機関にも連携するサービス提供	2.アレルギー情報寄り添うサービス創出 アレルギー等の情報を消防や学校に連携しておくことで有事の際に緊急搬送等の隊員が事前に準備することができ安心な暮らしを支えるサービスの提供
3.子育てサポート デジタル母子健康手帳で管理する乳幼児の健診データと、ソーシャルワーカーの相談履歴等を掛け合わせて、効果的なアクションをPushするサービスの提供	4.データを活用した危険運転度合いの測定 テレマティクスと運転シミュレーションデータを掛け合わせ自身の運転技能の判定や危険道路を可視化することで事故を未然に防ぐサービスの提供
5.デジタルポイントでの活性化 地域で育むべき文化・芸術に対してデジタル共助ポイントで価値を与えることで、持続的な地域活性化を後押しするサービスを提供	6.緑化・生態系可視化 行政や企業の取り組みがどの程度街の緑化に効果を与えたのかを地図や建物、Co2情報を掛け合わせることで実現して行動変容を促すサービス提供
7.電力データイエナカ見える化 家庭の電力消費データとケアマネ情報を掛け合わせ地域での見守りや声掛けを効果的に行い、フレイル抑制やコミュニティ形成を行うサービス提供	8.不動産データ利活用(補助対象外) 不動産等のアセットデータと個人情報と掛け合わせることで地域の空き家や公共空間を活用した賑わい活性化を促すサービスの提供
9.くま共創モビリティ 免許返納を行った人でも地域内を不便なく移動できるように人流・交通流・空き車両・ドライバーを合わせてセミオンデマンドの移動サービスを提供 (*群馬県連携事業のため県側にて補助申請)	

地域でのデータ連携を可能とする基盤サービス

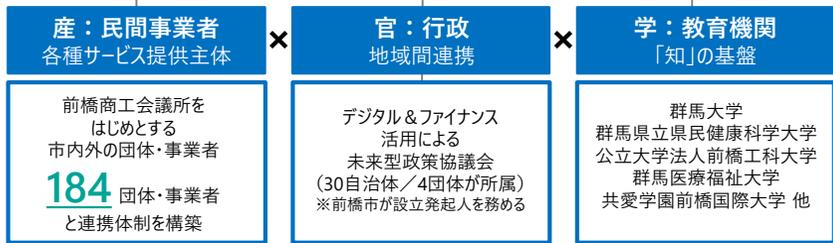
10.デジタル共助ポイントの実装	12.対面遠隔デジタル窓口	11.パーソナライズ化されたスマホ版まえばしダッシュボード	13.データ連携基盤 14.まえばしID	15-17.その他PMO,リスク評価など
------------------	---------------	-------------------------------	-------------------------	----------------------

USER ID サービス データ基盤 官民連携会社

実施体制図



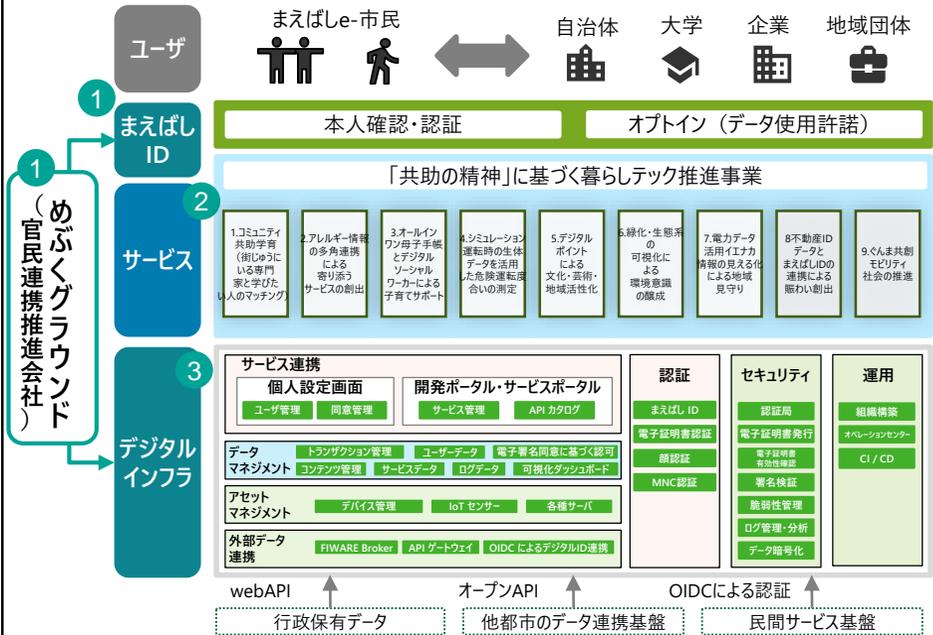
官民連携会社（めぶくグラウンド）* ビジョン実現に向けた基盤等の運営



- 本事業は、これまで前橋市が積み上げてきた考えやビジョンに即して推進するため市政への理解や土地勘があり、各分野の専門家であるアーキテクトを配置。アーキテクトはまちづくりの企画立案・実行に主体的にコミットしている。2019年10月から2022年4月末までスマートシティの協議は740回を超えトータル1480時間、アーキテクトとの会議は160回を超え、320時間に及んでいる。
- さらに、今後持続的に地域の事業を推進し、デジタルグリーンシティを実現するために官民連携会社を設立しスピード感とガバナンスを両立して推進していく他、産官学で役割を決め推進する。特に民間事業者はIDを活用したサービスアイデアを募っており、今年度に限らずサービスを断続的に創出する体制を組む。

*2022年10月ごろ正式設立に向け関係者調整中

システム構成図



- 1 本市では、**セキュアな統合IDである「まえばしID」**を構築。デジタル上での安心安全性を担保し、自分ごととしてまちづくりに参画できる環境醸成が、コミュニケーション・共助を促していくという「**デジタル市民自治**」の実現を目指していく。また、まえばしIDを通して取得した**データに基づく政策評価や街の資金循環を促し、まちづくりを推進する官民連携会社「めぶくグラウンド」**を設立する。
- 2 前橋が掲げる一人ひとりのWell-beingを実現するために、人を基軸としたサービスの提供を目指す。従来の分野に閉じる縦割りの考え方ではなく、**人を基軸として分野横断的にサービスを検討することで、デジタル田園都市国家構想の重視する複数データの連携による付加価値の高いサービスの創出を目指す。**
- 3 本市のデータ連携基盤が最も重視している設計思想が、「**自己主権に基づくデータ管理**」である。情報を吸い上げるのではなく、利用者が自分の意志でデータを提供する相手方を選択できて初めて、円滑なデータ提供と利用が可能となる。自己主権で決定されたデータ提供だからこそ、**本人同意に基づくデータ分析・個別最適化されたサービスのレコメンド・提供が可能となる。**

分類	#	今年度取組一覧	取組内容	まえばしe市民/地域への価値・効果
先端的サービス	1	コミュニティ共助学習 (街じゅうにいる専門家と学びたい人のマッチング)	✓ 多様な学びを求めている人と、自身の経験を社会に還元したい人をつなげ様々な学びの場を創出し、地域での学びを教育機関にも連携するサービス提供	✓ 市民全員が地域の専門家に容易にアクセスでき学び直しまちづくり、職業体験など 多様な経験を積む ことができる ✓ 専門家も自分の保有スキルを活用して地域に還元できるため 新たな居場所を発見 できる
	2	アレルギー情報の多角連携による寄り添うサービスの創出	✓ アレルギー等の情報を消防や学校に連携しておくことで有事の際に緊急搬送等の隊員が事前に準備することができ安心な暮らしを支えるサービスの提供	✓ 市民の個別事情に合わせ、最適な救急や給食などを受けることができるため 命に係わる致命的な事故を無くし、安心・安全な暮らし を享受できる
	3	オールインワン母子手帳とデジタルソーシャルワーカーによる子育てサポート	✓ デジタル母子健康手帳で管理する乳幼児の健診データと、ソーシャルワーカーの相談履歴等を掛け合わせて、データに基づく効果的なアクションレコメンドをPushするサービスの提供	✓ 子育てで忙しい人にそれぞれの事情に合わせた必要な情報がスマホのダッシュボードで 常に認識 できる ✓ 支援を求めることが容易となり 子育てがしやすくなる
	4	シミュレーション運転時の生体データを活用した危険運転度合いの測定 (事故防止と行動変容促進)	✓ テレマクティスデータと運転シミュレーションデータを掛け合わせ自身の運転技能の判定や危険道路を可視化することで事故を未然に防ぐサービスの提供	✓ 普段の運転やシミュレーションデータを基に自身の危険運転度合いを把握できるため、行動変容促進が適切に行われ、無謀な運転がなくなり結果として 地域の事故が減少 する
	5	デジタル共助ポイントによる文化・芸術・地域活性化	✓ 地域で育むべき文化・芸術に対してデジタル共助ポイントで価値を与えることで、持続的な地域活性化を後押しするサービス提供	✓ イベント参加だけではなく、運営の支援でもポイントが入手でき、特定の人に寄付もできるので、 共助の精神が芽生える ✓ さらにポイントを活用することで 地域商店の活性化にも寄与
	6	緑化・生態系の可視化による環境意識の醸成	✓ 行政や企業の取り組みがどの程度街の緑化に効果を与えたのかを地図や建物、Co2情報を掛け合わせることで実現して行動変容を促すサービス提供	✓ 自身の取り組みがどのように緑化や生態系へ良い影響を与えるかが把握できるため、行動変容が起き結果として 地域環境が改善 する。さらに 環境教育として生態系が学べる
	7	電力データ活用イエナカ情報の見える化による地域見守り	✓ 家庭の電力消費データとケアマネ情報を掛け合わせ地域での見守りや声掛けを効果的に行い、フレイル抑制やコミュニティ形成を行うサービス提供	✓ 電力情報を基に地域全体での見守りを実現するため、高齢者・子育て世帯など 地域のつながりを感じて快適に暮らせる ✓ 地域のつながりが コミュニティを形成しフレイル抑制にも寄与
	8	不動産IDデータとまえばしIDの連携による賑わい創出 (補助対象外)	✓ 不動産等のアセットデータと個人情報を掛け合わせることで地域の空き屋や公共空間を活用した賑わい活性化を促すサービスの提供	✓ 地域の空き屋や公共空間を活用することで地域イベントやイノベーション創発の取り組みが盛んに行われ地域が活性化する ✓ 人が多く集まるので、多様性を感じながら新たな創造が可能
	9	ぐんま共創モビリティ社会の推進 (群馬県連携事業のため県側にて補助申請)	✓ 免許返納を行った人でも地域内を不便なく移動できるように人流・交通流・空き車両・ドライバーを合わせてセミオンデマンドの移動サービスを提供	✓ モビリティの予約と移動、目的地での買い物や観光が一本化するので来街者等の買い物体験が向上する。市民にとってはシェア・デマンドカーを利用することで不自由な移動を享受
基盤系サービス	10	デジタル共助ポイント	✓ 市内における各種の共助活動を推奨するためのデジタル共助ポイントシステムの導入 (ポイント発行・管理・送受信 等)	✓ 人を助け合うことが当たり前となることで 市民の市民の自己実現・自己超越に向けた行動が促進 される。サービス事業者もポイントを活用することで 事業連携が促進 されることで結果として 市民にとって良いサービスが受けられる
	11	パーソナライズ化されたスマホ版まえばしダッシュボード	✓ 市の概況やイベント等を利用者(市民・来街者)の状況・関心に合わせてパーソナライズ化された形で届ける市民・来街者に向けたダッシュボードの構築	✓ 個人の事情に合わせた最適なダッシュボードが提供されることで欲しい情報やサービスが適切なタイミングで受けることができ、 自分のライフスタイルで快適に暮らす ことができる
	12	対面遠隔デジタル窓口	✓ サイネージ・本人確認手法を用いた遠隔にいながらも対面と相違ないサービスの提供	✓ スマホを使わない高齢者でも、身体が不自由で遠出ができない方でも1か所にいながら、様々な窓口サービスを享受できるため、 生活の利便性が向上 する

まえばし暮らしテック推進事業は全体で1つの事業として委託をかけたうえで、まえばしIDとそれに紐づくデータ連携の価値を最大化させながら事業を推進します

「まえばし暮らしテック推進事業」のイメージ

事業形態の全体方針

- ✓ 個別のサービス単位での発注とするのではなく、「まえばし暮らしテック推進事業」として1事業での発注とする
- ✓ 実装事業である点を踏まえて、構築のみならず令和4年度中の運用まで含めた委託事業として発注する

まえばし暮らしテック推進事業 (各ボックスはデジ田申請書に記載した取組の単位)

【業務①】全体設計・全体管理業務

取組⑰全体PMO

事業方針の伝達・事業進捗の報告

【業務②】「まえばしID」・「データ連携基盤」の実装及び運用業務

取組⑬データ連携基盤

取組⑭まえばしID

APIの提供・データ連携基盤との接続

APIの提供・データ連携基盤との接続

【業務③】

「先端的サービス」の実装及び運用業務

取組①
共助学習

取組②
アレルギー

取組③
母子手帳

取組④
事故防止

取組⑤
ブックフェス

取組⑥
緑化可視化

取組⑦
地域見守

【業務④】

「基盤系サービス」・「その他サービス」の実装及び運用業務

取組⑩
共助ポイント

取組⑪
ダッシュボード

取組⑫
デジタル窓口

取組⑮
リスク評価

取組⑯
5G基地局

(必要に応じた) 先端的サービスと基盤系サービスの接続

事業方針の伝達・事業進捗の報告

事業方針の伝達・事業進捗の報告

まえばし暮らしテック推進事業に係る優先交渉事業者選定結果

概要

- (1) 業務名 「まえばし暮らしテック推進事業」業務
- (2) 業務期間 契約締結日～令和5年3月31日
- (3) 事業者名 まえばし暮らしテック推進事業コンソーシアム
代表事業者：デロイトトーマツコンサルティング合同会社
- (4) 応募者 1者
- (5) 事業費 741,530,000円
- (6) 選定審査委員会
 - ①委員 庁内委員2名、外部委員2名
 - ②審査 令和4年8月17日（水）実施（プレゼンテーション）
- (7) 審査結果 応募者の提案を審査し、本事業が着実に実施できる体制と見込まれるため、優先交渉事業者として選定した。

各取組の実装・運用計画（調整中）

今年度構築する「サービス」・「めぶくグラウンド」・「データ連携基盤」をベースとして、
次年度以降はサービスからの収益をベースとした追加開発をもとに順次モデルを拡大していく

分類	#	サービス名	2022年		2023年		2024年	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
先端的サービス	1	コミュニティ共助学育	開発			サービス提供/PDCAによる改善		
	2	アレルギー情報の多角連携による寄り添うサービスの創出	開発			サービス提供/PDCAによる改善		
	3	オールインワン母子手帳とデジタルソーシャルワーカーによる子育てサポート	開発	追加開発		【追加分】サービス提供/PDCAによる改善		
	4	シミュレーション運転時の生体データを活用した危険運転度合いの測定	開発			サービス提供/PDCAによる改善		
	5	デジタル共助ポイントによる文化・芸術・地域活性化	開発			【定期開催】サービス提供/PDCAによる改善		
	6	緑化・生態系の可視化による環境意識の醸成	開発	追加開発		【追加分】サービス提供/PDCAによる改善		
	7	電力データ活用イエナカ情報の見える化による地域見守り	開発			サービス提供/PDCAによる改善		
	8	不動産IDデータとまえばしIDの連携による賑わい創出	開発			サービス提供/PDCAによる改善		
	9	ぐんま共創モビリティ社会の推進	開発			サービス提供/PDCAによる改善		
基盤系サービス	10	デジタル共助ポイント	開発			サービス提供/PDCAによる改善		
	11	パーソナライズ化されたスマホ版まえばしダッシュボード	開発	追加開発		【追加分】サービス提供/PDCAによる改善		
	12	対面遠隔デジタル窓口	開発			サービス提供/PDCAによる改善		
データ連携基盤	13	データ連携基盤 (まえばしIDを含む)	開発			サービス提供/PDCAによる改善		